

成績を残した中学生たちを広報常総9月号と10月号の2カ月に渡り特集します。

常総市の中学生たちが、様々な競技で飛躍し、関東大会での優勝や各地で開催される全国大会への出場を決めました。激戦を勝ち抜き、素晴らしい

水海道中学校剣道部

第52回全国中学校剣道大会出場

令和4年度茨城県中学校総合体育大会（剣道競技の部）において、水海道中学校剣道部が男子団体が優勝、個人では塚田隆明さんが優勝、武蔵啓斗さんが準優勝となり、8月に北海道釧路市で開催された第52回全国中学校剣道大会へ団体および個人での出場をそれぞれ決めました。

男子部員は8人。市内大会、県西大会、県大会を順当に勝ち上がり、全国大会への出場を決めました。

県大会初戦の波崎三中との試合は4-0、続く美野里中との2回戦を3-0、準決勝の佐野中は3-1と危なげなく勝ち進みましたが、決勝は、昨年の決勝戦で敗北を喫した茗溪学園中学



校が相手でした。

一度敗北している相手との対戦でしたが「昨年、決勝戦で負けている相手なので、今年は絶対に勝ってやろう」という強い気持ちで試合に挑んだとキャプテンの塚田さんは振り返ります。

副将まで終わった時点で1-1の状態、勝敗は大將を務める塚田さんに託されました。

勝てば優勝が決まる大將戦は、一進一退の攻防が繰り広げられる中で塚田さんの渾身の面が入り、同部として初めての県大会優勝を決めたのと同時に、初めての全国大会への切符をつかみ取りました。

神達 ^{りょうたろう} 良太郎
Ryotaro Kaudatsu
先鋒



自分は先鋒なので、チームの流れを作れるように頑張ります。

河津 ^{あゆむ} 歩夢
Ayumu Kawatsu
次鋒



このチームで出る最後の大会なので、1試合でも多くできるように、チームのために頑張ります。

高橋 ^{きよと} 澄士
Kiyoto Takahashi
中堅



全国大会は入学時からの夢でした。最後に出場できるので、1つでも上に行けるように頑張ります。

武蔵 ^{けいと} 啓斗
Keito Musashi
副将



勝っても負けても中学校最後の大会なので、今まで練習してきた成果を精一杯出して頑張りたいです。

塚田 ^{たかあき} 隆明
Takaaki Tsukada
大將



大將らしく団体戦ではチームを勝利に導いて行けるように頑張りたいと思います。

矢中 ^{かいせい} 海聖
Kaisei Yanaka
副将



チームの勝利のために、先輩たちを盛り上げたいです。

第30回全国中学生

空手道選手権大会出場

第22回茨城県少年少女空手道選手権大会において、西福寺道場（新石下）に所属する4人が男子団体（型の部）で2位の成績を収め、8月に鹿児島県薩摩川内市で開催された第30回全国中学生空手道選手権大会への出場を決めました。

4人の稽古場は石下幼稚園の体育館。体育館の壁に目をやると、歴代の各種大会の賞状が数多く飾られていました。週2回の稽古は、先輩たちの輝かしい記録を目標に、師範やお互いへの礼で始まり2時間行います。

空手の「型」団体は、選手が3人揃ってコートに立ち、見えない対戦相手をイメー

松並冬馬

石下中学校2年

木村統将

石下中学校1年





「型」を披露します。立ち方・技・正確な呼吸法などの技術面と、力強さ・スピード・バランスなどを競い、武道という位置付けながら、採点競技という意味では新体操やフィギュアスケートなどに近く、その完成度の高い演武は、見る人の心を打つ種目となっており「空手の型は、初めて空手をやる人でも綺麗にできるのが魅力」と松並さんは、話してくれました。

松並 冬馬
Toma Matsunami



団体「型の部」での全国大会出場への機会が少ないので、この機会を大切に、今大会では美しい型ができるように頑張ります。

佐々木 吏琥
Riku Sasaki



初めての全国中学生空手道選手権大会出場なので、今まで練習してきたことを十分に発揮して、まずは1回戦を突破できるようにしたいです。

木村 統将
Toma Kimura



全国大会では、緊張せずに今まで努力してきたことを十分に発揮して、一番良い型を打てるように頑張りたいです。

大滝 磨那翔
Manato Otaki



他の3人がしっかり演舞をできるように、後ろからサポートをしていきたいです。

大滝磨那翔

石下中学校1年

佐々木吏琥

石下中学校2年

